

2025 年 2 月 27 日 日本子ども宣教局伝道学校（子ども）

シム・ジュウファン先生

がくいんふくいんか がつ
学院福音化3月

「神の神殿としての 集 中 と 旅程」

I コリ 3:10-11、16-17

がつ がくいんふくいんか わたし き がつ げつかん しゅだい
3月の学院福音化メッセージから、私なりに決めた3月1か月間の主題です。

かみさま しんでん しゅうちゅう りよてい
「神様の神殿としての 集 中 と 旅程」

びと てがみだいいち しょう せつ せつ せつ せつ よ
コリント人への手紙第一3章の10節から11節、16節、17節を読みましょう。

10 わたし じぶん あた かみ めぐ かしこ けんちくか どだい す
私は、自分に与えられた神の恵みによって、賢い建築家のように土台を据えました。ほかの
ひと うえ いえ た せつ た ちゅうい
人がその上に家を建てるのです。しかし、どのように建てるかは、それぞれが注意しなければな
りません。

11 だれも、すでに据えられている土台以外の物を据えることはできないからです。その土台とは
イエス・キリストです。"

16 あなたがたは、じぶん かみ みや かみ みたま じぶん す
あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らない
のですか。

17 もし、だれかがかみ みや こわ かみ ひと ほろ かみ みや せい
もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからで
す。あなたがたは、その宮です。

せいしよ ひょうげん い しんでん つく はなし い きゅうやくせいしよ み た にんげん まち
聖書をほかの表現で言うなら、神殿を作る話だと言えます。旧約聖書を見れば、絶えず人間は町
を築いて、神殿を作ろうとする姿を見ることができます。

さいしよ しんでん しんでん つく じゅんび ひ けつたん
最初の神殿がソロモン神殿ですが、ダビデが作る準備をしたでしょう。ダビデはある日、決断をし
ました。「私はこのように良い宮殿に住んでいるのに、神様の契約の箱を置く神殿がない」その
はなし き どうじ よげんしゃ かみさま き
話を聞いた、その当時の預言者ナタンが、神様からこういうことばを聞きます。ダビデによって
しんでん つく ばめん み れきだい しょう せつ せつ よ
神殿を作らないように。その場面を見ましょう。I歴代17章1節から6節を読んでもみます。

れきだいしだいいち しょう せつ 歴代誌第一17章1～6節

01 ダビデがじぶん いえ す
ダビデが自分の家に住んでいたときのことである。ダビデはよげんしゃ
い。この わたし すぎざい いえ す しゅ けいやく はこ てんまく した
私が杉材の家に住んでいるのに、主の契約の箱は天幕の下にある。」

02 ナタンはダビデに言った。「あなたの ころ におこな かみ
ナタンはダビデに言った。「あなたの心にあることをみな行いなさい。神があなたとともに
られるのですから。」

03 その夜の くる つぎ かみ
その夜のことで。次のような神のことばがナタンにあった。

04 「行って、わたしのしもべダビデに言え。『主はこう言われる。あなたがわたしのために、住む家を建てるのではない。』

05 わたしは、イスラエルを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕から天幕に、幕屋から幕屋に移ってきたのだ。

06 わたしが全イスラエルと歩んだところどこでも、わたしが、わたしの民を牧せよと命じたイスラエルのさばきつかさの一人にでも、「なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか」と、一度でも言ったことがあっただろうか。』

このように、神様はダビデに「わたしは、いつ家を建ててほしいと言ったか」という話をされます。ダビデは、神様という全能者、創造主を神殿に閉じ込めておこうとする姿を見せたということです。この話の後半には、また、このように話されます。10節から14節まで見ましょう。

歴代誌第一17章 10～14節

10 それは、わたしが、わが民イスラエルの上にさばきつかさを任命して以来のことである。こうして、わたしはあなたのすべての敵を屈服させたのである。今、わたしはあなたに告げる。主があなたのために一つの家を建てる、と。

11 あなたの日数が満ち、あなたが先祖のもとに行くとき、わたしはあなたの息子の中から、あなたの後に世継ぎの子を起こし、彼の王国を確立させる。

12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしは彼の王座をとこしえまでも堅く立てる。

13 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。わたしの恵みを、わたしはあなたより前にいた者から取り去ったが、彼からはそのように取り去ることはしない。

14 わたしは、わたしの家とわたしの王国の中に、彼をとこしえまでも立たせる。彼の王座はとこしえまでも堅く立つ。』

今ここで話されているのは、単純にダビデの息子、ソロモンによって家を建てて、その国を堅く立つようにするという約束ではありません。ソロモンという名前の意味は何でしょうか。「シャローム」ということばと同じ意味です。「平和の王」です。ですから、イエス・キリストについて、その方によって完成された国のことを話しておられるのです。10節にも明確に語っておられます。「主があなたのために一つの家を建てる」と。14節にも話しておられるでしょう。わたしが永遠に彼を、わたしの家とわたしの国に、神様が神の国を立たせるという話をされます。

このように、神殿しんでんということは神様かみさまが建てられるのであって、人が建てるのではありません。それにもかかわらず、人間にんげんは神様かみさまのために自らの力ちからと熱心ねっしんの価値かちを証明しょうめいしようと、神殿しんでんを建てるといでしょう。結局けっきょく、神様かみさまは建てることを許ゆるされます。

ローマ人びとへの手紙てがみを見れば、パウロがこのように書いたでしょう。それゆえ、律法りっぽうの法ほうの下しもに置かれ、すべての人ひとを不従順ふじゅうじゆんのうちに閉じ込めたとされています。それは、「一度いちどしてみなさい」ということです。結局けっきょく、それを通して、私わたしたちが罪人つみびとであることを、私わたしたちの力ちからで何かできる者ではないということ、悟さとらせようとされるのです。ただ罪人つみびとに対してあふれんばかりに注そそがれる神様かみさまのあわれみを悟さとらせるためです。それゆえ、旧約聖書きゅうやくせいしよに登場とうじようする神殿しんでんは、人間にんげんが自分たちの力ちからと努力どりよくと熱心ねっしんで天てんに達しようとする、とても高慢こうまんの塔とうを建てることに過ぎないのです。

弟おとうと アベルを殺ころしたカインは、自分じぶんがもっと大きな罰おおを受けるのではないかと思おもって、町まちを築きずいてその中なかに閉じ込めて暮こらします。息子むすこの名前なまえをエノクとつけて、町まちの名なをエノクとして、その中にいたのです。外部がいぶからの威嚇いかくに、自みづから自分じぶんを守ろうと思おもったのでした。創世記11章そうせいきしいうでのバベルの塔とう事件じけんも同じです。人間にんげんが自分たちの力ちからを合わせて、町まちと、頂いただきが天てんに届とどく塔とうを建てて、自分たちの名なをあげようとしたのでした。それが高慢こうまんです。そして、初めての神殿しんでんだったソロモン神殿しんでんもそうで、二番目にばんめに作ったヘロデ神殿しんでんも同じでしょう。神殿しんでんが意味いすること、その内容ないようは完全かんぜんに忘れて、形かたちだけが残りのこりました。それゆえ、旧約聖書きゅうやくせいしよの最後さいごのマラキ書しよでは、どのように門もんが閉とざされるのか、前まえにもお話しはなししたでしょう。だれかが神殿しんでんの門もんを閉めてほしいという内容ないようで終わります。

では、そういう古い神殿しんでんの前まえにイエス様さまが来られて、壊こわされるべき古い神殿しんでんとして、十字架じゅうじかにかかられました。ヘロデ神殿しんでんの前まえで、イエス様さまがヨハネ2章19節しいうせつに、「この神殿しんでんを壊こわしてみなさい。わたしは三日でそれをよみがえらせる」と言われました。ところで、それが意味いすることを21節で明らかに語かたられました。この神殿しんでんを壊こわしてみなさいと言われたのは、「ご自分のからだという神殿しんでんについて語かたられたのだった」と言われています。そのように壊こわさなければならない古い神殿しんでんとして、イエス様さまが死しなれ、新あたしい神殿しんでんとして復活ふっかつされたのです。それによって、人間にんげんが天てんのまことの神殿しんでんに至いたることができる唯一ゆいいつの道みちは、イエス様さまご自身じしんだけだ、イエス様さましかないということ、明らかにされたのです。そのように、古い神殿しんでんが人間にんげんの努力どりよくと熱心ねっしんと義ぎを前面ぜんめんに出だすことだったとすれば、新あたしい神殿しんでんは、ただイエス・キリストの恵みめぐみによって入はいるということ、を現あらわすのです。

「恵みめぐみ」というのは、人間にんげんの可能性かのうせいを否定ひていすることばです。受うけることができない者ものに与あたえられること、返かえす力ちからがない者ものに与あたえられることです。ところが、私わたしが何か少ししたのがあって受けたなら、恵みめぐみは恵みめぐみになりません。私わたしがこの恵みめぐみに何か報むくいることができそうだと考かんがえるならば、それも恵みめぐみにならないのです。それゆえ、恵みめぐみというものは、私わたしたちの価値かち、可能性かのうせい、人間側にんげんがわの、

すべてが否定されるものなのです。それゆえ、神様の神殿として建てられたことは、恵みによってだけなされることを、エペソ人への手紙では恵みで救われたと表現しているのです。エペソ2章5節から6節です。

エペソ人への手紙2章5、6節

05 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

06 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました

恵みによって救われたというのは、恵みによって神殿になったということと同じことです。このみことばを見ると、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいましたと書いてあります。完了形です。また、キリストとともに天上に座らせてくださいました、これも過去形で完了形です。完成がすでに完了したのです。それが霊的な私たちの現実です。今、私たちはどこに座っていると書いてありますか。天上に座らせてくださいました。天上とはどこでしょうか。詩篇11篇4節を見ましょう。

詩篇11篇4節

主はその聖なる宮におられる。主はその王座が天にある。その目は見通し そのまぶたは人の子らを調べる。

前半のみことばも重要ですが、後半の「その目は見通し そのまぶたは人の子らを調べる」ということばに注目しましょう。ここに神様の私たちに向かった集中が入っているのです。私たちが神様に集中する以前に、先に神様がすべての集中をもって私たちを見ておられるということです。どこででしょうか。すでに完成された天で、天国で。このように、神様は完成された神の国で、私たちを観察して、摂理して、治めて、守っておられます。しかし、私たちは今、肉をもって、この地に生きています。この地を生きる間、見えない天のことを説明してくださるために、地のことによって私たちが説明してくださるのです。それゆえ、私たちはこの歴史、そして人生を生きる間には、主がくださった信仰ということを通して、目には見えない天のことを見て学ぶのです。

そして、ここでは私たちが神殿で建てられていく途中だという表現もしています。すでに神殿として完成されているのですが、この土地では建てられていきつつあるという表現をしています。

エペソ人への手紙2章 20～22節

20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。

21 このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。

22 あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

日本語の聖書のことはでは分かりにくいのですが、韓国語の聖書には明らかに言われています。

「ともに築き上げられ」ということばが、現在進行形で書かれています。神殿として築きあげられつつあるということです。

それでも、相変らず天のことにばかりは関心がなく、地のことにだけ目を向けて関心を持って集中して生きていきます。どのようにすれば、さらにすばらしくて、華やかな神殿を作り出せるだろうか。皆さんが考えている天国のイメージはどんなものでしょうか。これも何度も申し上げていますが、私が考えているすべてのことが備えられている所が天国だと思いませんか。それでは、実際に行ったら失望するかもしれません。それもすべておろしてください。神様が提示しておられる目的地に、私たちは何も関心なく生きているのではないのでしょうか。そのようにして建てられて行っているのは、神殿としての材料としては不十分な材料で建てられていっている状態であるとも言えます。

聖書には神殿を測量する、測る、そのような表現のみことばがたくさんあります。代表的にもくしろく しょう せつ み 黙示録11章 1、2節を見ましょう。

もくしろく しょう せつ 黙示録11章 1、2節

01 それから、杖のような測り竿が私に与えられて、こう告げられた。「立って、神の神殿と祭壇と、そこで礼拝している人々を測りなさい。

02 神殿の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測ってはいけない。それは異邦人に与えられているからだ。彼らは聖なる都を四十二か月の間、踏みにじることになる。

測量をして、少しでも神様のみところに合わないようには建てられたところがあれば、神様の栄光がそちらへ入ることはできません。

エゼキエル書では、エゼキエルが幻の中で神殿を測量する内容が出てきます。そこで、神様が
見せられたサイズのとおり、すべて完璧に作っておいたところ、そちらへ神様の栄光が入ったと
いう内容があります。すると、神殿を測量するということは、何の意味でしょうか。イエス・キ
リストの恵みという材料によってだけ、完全に建てられたのか。そうでなければ、自分たちの
熱心、努力、そのようなことで建てられたのか。私たちはここに本当に深い黙想をしてみる必要
があります。

神様のために私が何かをすることができると今、錯覚して生きているかもしれません。黙示録11
章2節を見れば、神殿の外の異邦人は、そのままにしないで。測らずにおいておきなさいと書いて
あるでしょう。なぜでしょうか。異邦人は、神様の神殿に入ってくることはできない者です。神殿
の中には、恵み、イエス・キリストの恵みによって建てられた神様の民だけが入ることができる
所です。異邦人の庭は、そのまま置いておきなさいと言われていています。

このキリストの恵みによって、イエス・キリストの恵みによってだけ建てられるということ、も
う少し説明するなら、先ほどのエペソ人への手紙でも何度も出てきていますが、キリストにあって
(キリストの中で)ということと同じことです。キリストの中に、キリストにあってということ
は、キリストというもののすぐ大きいプールの中に、完全につかっている状態のことです。これは
プールの中で足もつかないところにつかっている状態、死にます。キリストの中に完全につかっている
にさいということ、死にます。

外の庭はそのままにしておきなさいと言われていて、そして、私たちはエクレスシアとして呼ばれ
ました。神様の関心は教会にあります。教会堂ではなく、神の民にあるのです。上で見た詩篇11
篇にあったでしょう。エクレスシアということばは、「エク」(外へ)「カレオ」(呼ぶ)の合成語で、
「外へ呼ばれた」という意味です。それゆえ、私たちはすでに神様から離れたこの世から神の国
に呼ばれた者たちです。

最後に、旅程についての部分を少し説明します。私たちは、しきりに私の義を表わしたがること
を神様もよく分かっておられます。エペソ2章22節に、「御霊によって神の御住まいとなるので
す」という表現をしていますが、これがとても慰めになるみことばです。聖霊がおられる、それ
自体が慰めでしょう。助け主と言われていています。イエス様が助け主が来られてなされることは、どん
なことかを明らかに語られたことがあります。ヨハネ15章26節です。

ヨハネの福音書15章26節

わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。

聖霊が私たちの中に来てなすることは明らかで、一つだけです。イエス・キリストについて証ししてくださると言われています。ローマ人への手紙を見れば、私たちの弱さをよくご存じなので、聖霊が神様のみこころにしたがい、私たちのために、うめきをもってとりなしてくださると言われています。

聖霊に満たされることをいつも求めてください。神様が目的として定められた目的地に導いて行かれる方が、聖霊です。その旅程の中で、私たちの生活を通して、イエスだけが証しされるようにしてください。使徒の働きに出てきた使徒のすべての歩みは、すべて聖霊に満たされて導かれる中で、神様のみこころである目的地に導かれて行く旅程でした。使徒たちの旅程は、そうでした。ですから、皆さんもいつも聖霊に満たされることを祈って、また、キリストだけ証しされる生活、旅程を歩むように願います。

以上です